

48歳、4児の子育てを覚えているまてをしている父親です。老朽化した建物を見ながら、「お疲れ様でした」と心のうちでつぶやかずにはいられませんでした。

20歳の夏、私はパークパッカーとしてヨーロッパを旅しました。特に忘れられない思い出は、イタリアのフィレンツェで、ベッキオ橋の隣の橋の欄干でワインを飲みながら様々な国籍の人々と語り合った時のことです。酔いに任せて夢中に話して話している

先月末、アーケード名店街で解体前の防火建築帯を見学してきました。この地区は戦後初の美観地区で、大学で都市計画を専攻し、「沼津市の都市景観形成」をテーマに卒業論文を書いた私にとって少なからず思い入れがありました。

特徴的な歩道は、地権者が歩道空間として自らの土地の一部を開放することで生まれた先進的なもので、現在では様々な場所でも当たり前のように目にする共有財(コモン)の考え方に通じ、当時、その先進性に感動した

頃に狩野川の土手で桃屋のパンをかじりながら見上げた御成橋と月の景色を思い出し、私の故郷も、こんな風に人々の思い出に残る場所になればいいと思い、都市計画を志しました。

大学卒業後はゼネコンに就職しましたが、3年後、父に頼まれて沼津に戻り、家業を手伝うことに

しました。当初、父に言われるまま望む通りに仕事していましたが、1年程が経過した夏、叔父から「父は父だ。お前はどのように会社を経営し、生きていきたいのか？」と叱責されました。

当時の私は本当に何も持っておらず、私にできるものは何だろうと悩み苦し

しました。当初、父に言われるまま望む通りに仕事していましたが、1年程が経過した夏、叔父から「父は父だ。お前はどのように会社を経営し、生きていきたいのか？」と叱責されました。

当時の私は本当に何も持っておらず、私にできるものは何だろうと悩み苦し

スクラップビルド

飯田理一朗

と自らの手と足で出るソフトのまちづくり活動を行っていききました。

本当にいろんな人に出会い、いろんな考え方、生き様に触れ、勉強させてもらいました。そして、沼津で生きる覚悟ができました。

10年が経ち、事業継承の時期が来た時、私は全ての活動に終止符を打ちまし

ました。理由は、私のように沼津で充実した日々を送る人が現れてほしいと願ったからです。そのためにも、まずは、私が、その場を離れる必要があると考えたのです。

余白が生まれれば、新しい創造が生まれるはず

ました。理由は、私のように沼津で充実した日々を送る人が現れてほしいと願ったからです。そのためにも、まずは、私が、その場を離れる必要があると考えたのです。

余白が生まれれば、新しい創造が生まれるはず

ないイベントや活動が行われています。今は家族で参加させてもらい、楽しませていただいています。

影響と派生、破壊と創造を繰り返しながら、街は生きています。のだなと感じています。

私は分子生物学者の福岡伸一氏の「動的平衡」の考え方に共感しています。私達の体では、日々脳細胞を含め約1兆個の細胞が入れ替わっています。ただし、万物は自然則・エントロピーの増大の法則からは免れず、秩序から無秩序へ必ず移行していきます。そんな環境で昨日の私と今日の私が、できる限り同じであるためには、自らが自らを壊せることと、新陳代謝を早めることが必要であると福岡氏は述べます。

日々生まれてしまが壊せなければ、増殖します。新陳代謝が悪くなるといことは、老化に直結します。これは人間そのものだけでなく、人間の営み全てにおいても成り立つことだと私は考えています。私自身が継続的に私でいるために、自らが自らを壊し、新陳代謝を早めることを意識して

人は、続けることを善、断ち切ることを悪と感じますが、それは人類が歩んできた歴史による生命観、子孫繁栄の願によるものだと感じています。ただし、生命として続くためには、破壊による創造のための余白が必要

ました。理由は、私のように沼津で充実した日々を送る人が現れてほしいと願ったからです。そのためにも、まずは、私が、その場を離れる必要があると考えたのです。

余白が生まれれば、新しい創造が生まれるはず

大きな輪展入選などの受賞歴がある。

小学生の時から金魚が好きで、金魚を描いて来年で20年。油彩や水彩、パステルなどを中心に、ワイヤ立休などパリエーションに富んだ全ほか、結婚前や亜紀子として創

はじめての我がはじめとする絵画や人物画、作家の軌跡を展示と

市内から妻と「1回目、2回目と見る」情が違ってみる。金魚愛が執着する。金魚好きには「うら」と感心する。透明感ある色彩に彩られる魚たちは表情が愛嬌がある。「いくら描い

(原町中)